

題名 「介護という仕事」

氏名 村井 愛

私が、介護という仕事を知ったのは四年生のころでした。学校に目の不自由な高齢者で盲導犬を連れて来た方と、耳の不自由な人、車イスに乗っている方達が来てくれました。そして、何が大変なのかなどのお話を聞かせてくれました。

目の不自由な人は、目が見えないので美しい景色など見れないことがさびしいと言っていました。小学生の時にケガが原因で目が見えなくなり、目の見えない子達がいる学校に転校することになったそうです。私は、せっかく友達になった人とはなれる事になるなんて私だったらイヤだと思いました。耳の聞こえない人は、手話を通してお話していました。通訳の人が手話を口で説明してくれました。困っている事は、洗たく物が終わったことを知らせる音が聞こえなかったり、名前をよばれてもわからないことが困っていると言っていました。車イスの人は、車イスには種類があつて、車イスでのバスケの選手の人達で、スポーツ用の車イス

に乗って来てくれました。ふつうの車イスとちがってタイヤが少しななめになってターンしやすくなっていたり、ブレーキの無い車イスでした。じっさいにやってみて、他の人達とぶつかったり、うまくそうさできなかつたり、シユートしづらかつたりしました。

そして、8月5日に酒谷敦子さんの話を聞いて、自分の知らなかった介護の仕事をたくさん知りました。介護される人の希望に合わせてお世話をしている事や、認知症予防のトレーニングなど行っていることがわかりました。介護される人の希望に合わせてお世話をする事を知ってびっくりしました。それが、すごく大変そうだと思います。自分だったら、出来そうにないのでそれをできる介護福祉士さんがすごいと思いました。

題名 「私のお母さん」

氏名 畑 あみ

「ねえ、お母さん。どうしてお母さんは介護の仕事をしようと思ったん？」

私のお母さんは、介護施設で働いています。コロナウイルスが感染拡大していない頃に、私は何度かお母さんの職場にお手伝いに行った事があるのですが、介護の仕事を少しは知っています。お風呂や食事、トイレのお手伝い、オムツ交換とお話し相手、24時間365日、職員の方が交代でお世話をしています。私は、こんな大変な仕事をどうして選んだのか疑問に思い聞いてみました。

「えっ、何でやろう。」と言いながら、お母さんは話してくれました。

「人と接する事が好きやからかな。お手伝いが必要な人がいて、それを助ける事ができたら嬉しいし、それが仕事やったらいいなと思ってん。お母さんもいつかは歳とるし、その時にお世話してくれる人がこういう人だったらいいなと思いつつながら働いとるよ」

私は、全然知りませんでした。お母さんがこんな風に思いながら仕事をしていたなんて。介護の仕事は大変だと思っていたけど、お母さんから大変だと言う言葉を聞いた事がなかった理由がわかったように思います。

でも、私は、この介護という仕事をしたくはありません。お医者さんのように病気を治す、学校の先生のように勉強を教えるなど何をどうするという先がわからないからです。

だから、大人になるまであと9年間、きっとまだまだ介護が必要な人はたくさんいると思います。お母さんも歳をとって誰かのお手伝いがないと毎日の生活が不自由になる日があるとだと思います。その時にどんな未来になっいて、どんな事が必要で、自分に何ができるとかを考えながら大人になっいていききたいと思います。

そして、お母さんがおばあちゃんになった時に安心して暮らせるように、介護という言葉がなくなる未来を作っいていききたいです。

題名「福祉・介護について学んだこと」

氏名 安部 帆乃香

わたしが、介護の親子学習会で学んだことは、福祉の仕事は、生活の中での困難を助け、人の体や心を支えるということです。他にも、福祉・介護の魅力は、支える楽しさや、支えられる喜びを実感できるといふように人との関わりだといふことも学びました。そして、物理的なバリア・制度的なバリア・文化、情報面でのバリア・意識上のバリアの四つのバリアを取りのぞいて生活しやすくするバリアフリーがあることが分かりました。わたしは、バリアフリーで高齢者や障害のある人が過ごしやすくなるようなバリアフリー社会をつくるのが大切だと思いました。

リハビリテーションとは、病気やけがで動けなくなった、あるいは動きにくくなったところを再び動かすことができるように治療をするとともに障害が残ってもやりたいことや、希望する生活が自分でできるように支援をすることだと分かりました。そして、リハビリテーションに関わる専

門職として理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）があつて、それぞれの職種が協力してより効果的にリハビリテーションを行なっていると分かりました。わたしは、それぞれの人にあわせて効果的にリハビリテーションを行つていてすごいなと思いました。

わたしは、福祉・介護の親子学習会をとおして、福祉・介護のやりがいが分かったり、バリアフリーで高齢者や障害のある人が過ごしやすい社会をこれからつくっていくことが必要だと感じたりしました。これから高齢者の方がふえて少子高齢化になったり、障害者の方のバリアがまだあったりしたら、高齢者や障害者への一人一人の意識や関心を高めて、もっと福祉や介護について知る人がふえたらいいなと思います。わたしは、福祉・介護の親子学習会で前よりもっと関心が高まつて、もっと福祉・介護について勉強して将来お母さんやお父さんの介護をしたいと思います。